

令和6年11月20日(水)

令和6年度 第2回 岡谷市工業活性化会議

会 議 録

【出席者】

委員（9名）

木下副会長、垣内委員、笠原委員、榊委員、林（直樹）委員、林（将昭）委員、三ツ井委員、宮澤委員、桃井委員

（欠席者：欠席：林（広一郎）会長、長田委員、三村委員、矢島委員、山岸委員、山田委員、弓削委員…計7名）

岡谷商工会議所

今井 基雄相談所長兼工業・経営支援課長

岡谷市

早出 一真市長

木下 稔産業振興部長

真田 健工業振興課長

小坂 秀文主幹

吉田 晋主幹

久保田 宏陽主幹

鈴木 治樹主査

水澤 優馬主任

伊東 龍之介主事

石黒 周司専門官

令和6年度 第2回 岡谷市工業活性化会議 議事録

会 議 名	令和6年度 第2回 岡谷市工業活性化会議
開 催 年 月 日	令和6年11月20日（水） 15時30分～
開 催 場 所	テクノプラザおかや 商談室
会議概要 <u>1 開 会</u> <u>2 あいさつ</u> <u>3 協議事項（工業活性化計画に基づく令和6年度事業の進捗状況について）</u> ■基本戦略1、2 （委員） ・工場用地等の活用促進のうち、情報提供件数8件の内訳について、市内、市外どちらへ提供した件数になるか。 ⇒市内外どちらも含んだ数字になる。 （委員） ・製造業の創業件数3件とあえて別出ししている理由は。 ⇒工業活性化会議ということもあり、製造業をわかるように示させていただいた。ただ、幅広く創業者が生まれることで様々な相乗効果があると考えている。 ・市内創業件数の業種不問が16件とのことだが、詳細な内訳はどのようなになっているのか。 ⇒生活関連サービス業が大部分を占めており、そのほかとしては、卸売業、コンサルティング業、飲食業を営んでいる方もいらっしゃる。 （委員） ・シェアオフィスについて、満足度調査等の意見聴取を行っていただきたい。 ⇒昨年度から開設し、運営をする中で要望を聴取し、開館時間の延長や年末年始以外の全日開館にするなど対応を試験的に実施している。また、入居者へのインタビューも実施をしているところであるが、引き続き改善点を出してもらおうべく動いていく。 ⇒利用者の中には市内企業と連携したいという方もいらっしゃる。機会を設けるなどの取り組みも今後は必要になってくると考えている。	

(委員)

- ・ 昨年、当庫には創業の相談が100件以上あった。そのうち融資に繋がったのが約70件。6市町村で見ると均等に相談を受けている状況。ほとんどがサービス業になるが、一部で、経営者の方が後押しをする中で製造業の方が独立するパターンも増えてきている。市の方でもさらなる起業支援をお願いしたい。
- ・ 最近では、学生のころからの起業も一般的になりつつある。子どもの頃からの起業家教育も重要であると考えている。市とも協力をしていきたい。

■基本戦略3、4及び、テクノプラザおかやの利用状況

(委員)

- ・ 岡谷工業高校・岡谷東高校合同企業研究会について、その後、参加者のうちどのくらいの生徒が就職したのかという数字は学校側から報告や情報はもらえるのか。
⇒3月末時点で進路の調査を実施しており、岡谷市内にどれだけ就職したのか把握することができる。

(委員)

- ・ 同じく、岡谷工業高校・岡谷東高校合同企業研究会について、説明する企業側の参加数は例年と比べて変化はあったのか。
⇒企業側の数が少し増えている。岡谷工業高校については103社（市内企業37社）の企業に出展いただいた。昨年は91社（市内企業33社）となっている。岡谷東高校については75社（市内企業22社）であり、昨年は63社（市内企業22社）となっている。
企業の引き合いが増えてきており、先着順のためお断りするケースも出てきている。

4 意見交換

(委員)

- ・ 企業にお集まりいただく形で研究会運営をよく行うが、参加するのは、活力・意欲の高い企業。どうやって活力を維持していくかが重要。
- ・ 市側の出す成果数字が直接のバロメーターになるため大切である。その中で、投資額まで把握できているのは、市のネットワークのおかげ。
- ・ 市全体の生活感での活力と無関係ではない。きめ細かくみていらっしゃると思うが、予算にしばられず、動かしていく運用を期待させていただく。

(委員)

- ・会社としては、「いかに価値を上げるか」という部分と、「自分たちがなにをしていきたいのか」というビジョンを考えないといけない。同時に、社員、住人にもアピールしなければいけない。
- ・少子化が進む以上、景気は悪くなる。そうした時に、グローバルな視点でみななければいけない。小さい会社は大手と組み、大手がどうしたいのかを、海外を含めて考えなければいけない。岡谷だけでビジネスが成り立つかといえばそうではない。市場の状況を読み取りジェット気流のような上昇する波に乗っていかなくてははいけない。市は有益な情報を取得していただきたい。

(委員)

- ・子どもの頃からのものづくり意識啓発の推進として、信州大学では若年人材のロケットワークショップに取り組んでおり、今年度も市内小学校で実施をしている。岡谷の生徒はセンスが良いと感じる。こうした取り組みは子どもへのインパクトも大きいと考えている。今年度からはセイコーエプソン株式会社にも支援をいただいている。
- ・新技術・新製品等ものづくりチャレンジ企業応援事業補助金では、審査委員を務めている。今後は取り組みが継続し、雇用につながってくればと思う。
- ・第1回会議の際に3次元造形の関係で国として巨額の投資があるという話をさせていただいた。現在、技術者の支援、育成、資格認定にシフトしてきている。先日、長野市で開催された産業フェアin信州に赴いた際、市内企業で金属3Dプリンティングについて出展している企業がいた。今後連携をしていきたい。

(委員)

- ・2024年6月に「事業性融資の推進等に関する法律案」が可決され、新たな担保制度として、企業価値担保権が創設された。これは、事業そのものに担保権をつけるというものであり、勉強会を開かせていただいている。スタートアップの活用が中心になると思われるが、企業に対する融資の在り方が変わってくるホットな話題。
- ・廃業の流れを止めることはできないが、起業家を育てていくことが大切。起業家教育により、学生のころからの学びが重要。
- ・当庫への相談の中では、工業用地の関係が話に上がる。数件場所がないかと相談が来ている状況。先日、北陸方面で町が復活している事例を視察した。町も復活生まれ変わることができる。エッジを利かせた施策を展開していただければ。

(委員)

- ・会社の状況としては、量産物が多い状況。人手が少ないため、機械化しようと取引先に相談するが、今後の取引がどうなるかわからないので、いままでどおりという話をされる。そのような状況では、半年凌ぐことができて、その先はわからない。
- ・社内では、所得税にかかる「103万の壁」の関係で、12月は出勤を調整しなければいけない人も出てくる。どうしようかと思っている。

(委員)

- ・他地域において、創業スクールの講師をしている。実績にある創業スクール受講者数は諏訪地域全体で27名ということかと思う。製造業出身のかたが、創業をする場合、工場や機械を買う等の初期投資がネックである。金融機関と市が組んで、どのように連携していくかが課題である。
- ・廃業は止められない課題だが、廃業すると工場が空く。そういった工場を還元していければと思う。手放していただくということも推進していただきたい。地価が下がっていく中で、現在は売れるものも今後は売れなくなってしまう。今売ればまだ高いという認識を持っていただく必要もあるのではないか。

(委員)

- ・技術を持った方が知らない間にいなくなるのは残念。世の中でなくなっていく技術も残していく必要がある。そうした中で、ものづくりフェアは大切な取り組み。全国の中でも子どもと同じ目線で行うこうしたイベントはあまりない。他の市町村とも差別化ができること。
- ・工業振興課も計画の歴史がある。今後、これまでの苦労話を交えてお話いただけるとわかりやすい。
- ・工場で困っており、近隣市に立てる計画がある。企業側は損得勘定でメリットのある場所を探してしまうため、わりとドライである。

(委員)

- ・団体活動として、岡谷市表面処理工業会、21経営者研究会に参画している。
- ・岡谷市表面処理工業会では新しい視察先の話がでてきており、半導体関連が盛り上がってきている福岡、熊本を検討している。
- ・21経営者研究会では、今年度広島に視察に伺った。同じ工業系でも造船関連など分野が大きく異なった印象。また、同研究会は新たに3者会員が加わり、熱心に活動している。

(会長)

- ・業種にこだわらず創業の件数が増えればと思っている。零細でも創業が起これば活気が起こる。若い人の就職意識がスタートアップに就職したいという人が多いと聞いている。魅力のあるスタートアップに岡谷に来ていただくというのもありかと思う。
- ・創業において最も大事なのが、補助金を含めた金融支援だと感じる。
- ・アントレプレナーをバックアップする企業群があればよいと感じる。
- ・ラオカヤの跡地については、箱ものというわけではないが、入りたいと思わせる物ができればと思っている。
- ・能登半島のように被災している地域がある中で、このように議論させていただけるのは幸せなこと。企業でもBCPという考え方がある。諏訪地域内の連携の他、様々な地域と連携し、ネットワークを構築していく必要がある。

5 その他

特になし。

6 閉 会

以 上